# 第24回日本都市計画学会中部支部研究発表会の報告

**2013年10月26日(土)　会場　穴水さわやか交流館プルート(2F多目的ホール)**

第24回日本都市計画学会中部支部研究発表会が、平成25年10月26日（土）に石川県能登半島に位置する穴水町「さわやか交流館プルート」において開催された。名古屋駅から４時間以上かかるという非常に交通の便が悪い場所にもかかわらず、多くの人に参加頂き、午前中の研究発表会、午後からのシンポジウム、ともに熱い議論が交わされた。

午前中の研究発表件数は、昨年度と同じ 14 編で、その発表内容は北陸新幹線の開業による駅周辺土地利用の変化に関するものから、洪水災害を対象とした最適避難計画まで、非常に幅の広いものであった。

**１．午前の部　研究発表会(10:00～12:15)**

**第1会場･･･司会:倉内文孝(岐阜大学)**

**第1セッション(10:00～10:50)「都市化と土地利用」**

第１会場（多目的ホール１）では、(1)新幹線開業に向けた鉄道駅周辺の土地利用の変化に関する考察～金沢駅周辺を事例として～（小滝省一・他３名）、(2)南京市における都市化状況の推移に関する一考察（小杉翠・他２名）、(3)戦後金沢の都市観光地としてのイメージの形成（佐野浩祥）の３件の発表が行われ、会場からも多くの質問がなされた。

**第1会場･･･司会:小林史彦(金沢大学)**

**第2セッション(11:05～12:15)「まちづくり」**

引き続き、(4)街路空間における来街者の滞留行動に関する研究～名古屋市栄地区を事例として～(小久保貴文･他２名)、(5)豊田市ペデストリアンデッキにおける対流行動に関する研究（幸田太郎・他２名）、(6)宅地内にある緑景観の維持管理に対して住民の参加協力を促す維持管理活動に関する研究～名古屋市東部の低層住宅地におけるケース･スタディ～(浦山益郎・他１名)、(7)子供を対象としたまちの歴史・未来すごろくづくりワークショップの報告と考察～豊川市中心市街地地区における実践例を通じて～（豊田章起・他２名）の４件の発表があり、会場からは｢歩行者の滞留を促すためには、ベンチなどをどのように配置すればよいのか｣、｢緑景観の維持管理活動への協力意識と地区特性はどのような関係にあるのか｣などの質問が出された。

**第２会場・・司会：塩士圭介（日本海コンサルタント）**

**第１セッション（10：00～10：50）　「交通計画」**

第２会場（多目的ホール２）では、(8)中京都市圏物流における業種別の鉄道輸送への転換評価モデルの構築（大岩大記・他２名）、(9)施設・駅の配置を考慮した地域特性が属性別の交通特性に及ぼす影響分析（八幡一憲・他１名）、(10)個人属性を考慮した所要時間提供による都市間高速道路における渋滞緩和効果分析（魯旭海・他１名）の４件の発表があり、会場からは「輸送手段選択モデル作成時のサンプル抽出率の設定方法の考え方」について質問が出された。

**第２会場・・・司会：埒　将浩（日本海コンサルタント）**

**第２セッション（11：05～12：15）「公共交通・地域交通」**

引き続き、(11)複数自治体連携による公共交通活性化に関わる職員の意識に関する事例報告（塩士圭介・他２名）、(12)能登半島における地域生活交通の実態と地域連携方策に関する調査研究（向川利樹・他２名）、(13)バスネットワークのサービスレベル評価：岐阜市を対象として（山内慎・他１名）、(14)洪水災害を対象とした車と徒歩での最適避難計画（三荒智也・他１名）の４件の発表があり、会場からも盛んに質問が出された。

**２．午後の部　シンポジウム（13:30～16:30）**

**会場：多目的ホール１・２（２Ｆホール）**

午後は「中山間過疎地域における地域公共交通の現状・課題と今後のあり方」をテーマとして、シンポジウムが行われた。まず、日本都市計画学会中部支部長の片木篤：名古屋大学教授のあいさつの後、学会本部より来ていただいた学会専務理事代行の横堀真：東京大学教授にご挨拶いただき、シンポジウムを開始した。

前半は、加藤博和氏（名古屋大学准教授）の基調講演「中山間過疎地の生活を支える交通体系の確保・維持・改善方策～５つの鉄則～」と塩士圭介氏（(株) 日本海コンサルタント）の基調報告「複数市町村の協働による公共交通活性化事例～滋賀県湖東圏域における取組を例に～」、後半はパネリストに柳沢吉保氏（長野工業高等専門学校教授）を加え、パネルディスカッションが行われた。

（写真：パネルディスカッションの一場面）